

## 平成 24 年度「環境基礎ゼミ 後期プレキャリア」実施報告

百 木 英 明\*

### はじめに

昨年度に引き続き、明星教育センターとして、理工学部総合理工学科環境生態学系のプレキャリアを実施した。以下、実施しての報告である。

### 1. 実施について

昨年度の実施実績・反省点を踏まえて、学系との連絡を細目に行ない、後期10月半ばから2名の教員により実施した。

#### 1) 昨年度との変更点

① 今年度は昨年度の8回から6回の実施へとコンパクトにした。

内容としては、昨年度の内容を略網羅するものであった。第一回目のテーマを「聞く力・話す力」とし、グループの協力体制を築くねらいとした（昨年度の第1回と第2回を統合）。第二回目を「読む力・書く力」とし、昨年度の第3回と第4回を統合しての実施となった。第三回目以降は、昨年度と同様のテーマで実施した。

② 今年度は、同時限での2クラス同時開講による実施。

時限が異なる実施が学生のコマ負担ともなりかねないことから、学生数をも勘案し、2クラス同時に今年度は実施した。

クラス	学籍番号	教室	担当教員
A	1～29番	23号館204教室	上原
B	30～56番	23号館205教室	羽矢

③ 小冊子を準備配布。

昨年度其々の回で資料等を配布していたのを、今年度は初回に小冊子を配布し、学生が全体及び各回の内容を把握できるようにした。これは、事前準備と事後の振り返り、資料の散逸を防ぐねらいでもあった。

#### 2) 教案

昨年度実施した内容を踏襲し、今年度は羽矢先生を中心にワークシート等の作成準備から取り掛かった。授業のねらいは以下の通り、昨年度との変更はない。

① 授業のねらい

「学びの意識を高め、学び始めるための基礎的な力を育てること」

「自立と体験1」による「自己理解」の上に成り立つ「学びの準備」

ア. 「読む・書く・聞く・話す」の基礎力の向上

イ. 日本社会の現状を理解し、卒業後のキャリアデザインを考える

\* 教育学部 常勤准教授 明星教育センター

②授業の内容

日程	テーマ	内 容
第1回 10/13	聞く力・話す力	・「聞く・話す」という基本的なコミュニケーションにより、相互理解を図る。 ・グループワークの体験を通して、人と協力することを理解する。
第2回 10/20	読む力・書く力	・文章を読み、ポイントをつかむ力を身につける。 ・相手に伝わりやすい文章を作成する力を身につける。
第3回 10/27	自分にとって大切なことを考える	・自分の大切なものを通して、自分の価値観が自分のライフプラン（卒業後の人生）に関連することについて考える。
第4回 11/10	自分を表現する	・自分について、文章で表現してみる。 ・他者の良い面を認め、相手に伝える。
第5回 11/17	社会と働く意味について考える	・大学卒業後に働く社会についての理解を深める。 ・人と社会と仕事がどのように関連しているのかを理解する。
第6回 11/24	学ぶことの意味について考える	・卒業後のキャリアデザインを考えることにより、学ぶことの意味について考える。 ・卒業後につながる4年間の学びについて考え、計画を立てる。

一回目は、「聞く・話す」の基本的コミュニケーションを通して相互理解を図るねらいで、廊下に張り出されたある情報をグループメンバー各々が交互に集め、情報を一つに集約する過程でメンバー相互の協力関係に気付かせることとした。

二回目は、朝日新聞2012年9月7日の社説「自然エネルギー—普及への壁取り払え」を活用し、キーワード・中心文を探し、文章を読むことと、要約する力を身につけることをねらいとし、小論文を書く際の注意点・構成を理解させることとした。

三回目以降は上記表の通り、昨年度と同様の内容で実施した。

2. 総括

1) 学生の出席状況

各クラスにおける出席状況は以下の表のとおりである。

2012年 環境基礎ゼミ 後期プレキャリア  
学生出席状況

担当教員	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	平均
上原先生	24名	21名	21名	20名	22名	24名	22名
(28名)	85.71%	75.00%	75.00%	71.43%	78.57%	85.71%	78.60%
羽矢先生	25名	25名	26名	22名	26名	26名	25名
(27名)	92.60%	92.60%	96.3%	82%	96.30%	96.30%	92.60%
計	49名	46名	46名	44名	48名	50名	283名%
(55名)	89.10%	83.60%	83.6%	80%	87.30%	90.90%	85.76%

概ねの出席率は、86%と良好といえる。今回は、星友祭を前後して出席率は低く、最後に盛り返したような状況であった。初回に、学生へは積極的参加を促す他諸注意を伝え遅刻をなくすよう説明したが、遅刻者は多く見かけられた。

## 2) 担当教員による総括

## ① 羽矢先生

日程	授業のテーマ	出席者数 登録 27 名	各回に関するコメント
第 1 回 10/13	聞く力・話す力	25 名 92.6%	グループで協力して一つの図を完成させるワークは、楽しみながら熱心に取り組んでいた。すでに交流ができていた同じ学科の学生同士なので授業はスムーズに始められた。
第 2 回 10/20	読む力・書く力	25 名 92.6%	読解の方法を指導して文章を要約させた。さらに自分の意見を述べる 300～400 字の小論文では、ほぼ全員が時間内に提出できた。添削指導をして返却した。
第 3 回 10/27	自分にとって大切なことを考える	25 名 96.3%	自分にとって「大切なこと」「好きなこと」を考えさせ、将来の仕事について考えるきっかけとなることを授業の目的とした。現在の自分を客観的に見つめ、さらに友人の意見を聞くことによって刺激を受けたようである。
第 4 回 11/10	自分を表現する	22 名 81.5%	「今の自分」を作っている、これまでの自分の「ヒストリー」を考え、延長線上にある「今の私」を表現させた。過去から現在へという流れをたどることは、学生にとってイメージしやすい作業のようだった。
第 5 回 11/17	社会と働く意味について考える	26 名 96.3%	自分にとっての「社会」とは、どのようなものなのかを考えさせ、さらにテーマに関わる「仕事」や「人」について広くイメージさせるようにした。
第 6 回 11/24	学ぶことの意味について考える	26 名 96.3%	将来就きたい仕事をイメージして、現在は何をするべきなのかを考えさせた。将来と大学生活が直結しているという説明に耳を傾けていた。大学生活と社会人の生活が結びつきにくい、学生の概念を変えていくことが大切であると実感した。

## 総括

全 6 回の授業の中で、後半のキャリアデザインを意識させる授業では、1 年生の後期という時期でもあり、具体的にイメージを広げていくことが難しいようだった。しかし、漠然とした将来をグループの友人と話し合うことで刺激を受け、考えようとする学生が多かったことが印象的である。また、小論文のような体裁の整った文章の作成は一定のレベルに達しているが、図式化など自由に自分の考えを表現するという事に慣れていない学生が多いと実感した。自分なりの表現方法が獲得できていないと推測する。「自分を表現する」力をつけて将来を見通すことをさせるためにも、プレキャリアの授業は重要な役割を果たすと考えている。

アンケートでは、前期に実施した「自立と体験 1」の授業と似ているという感想が多かったため、今後は授業の進め方に改善が必要だと考えている。

## ② 上原先生

日程	授業のテーマ	出席者数 登録 29 名	各回に関するコメント
第 1 回 10/13	聞く力・話す力	26 名 89.7%	グループワークで協力体制ができた。グループ一つのチームワークが凍り付いていた。次回のメンバー変更を決めた。
第 2 回 10/20	読む力・書く力	23 名 79.3%	読解の方法を指導して文章を要約させた。自分の意見を述べる 300～400 字の小論文は、ほぼ全員が時間内に提出できたものの、一部後日の提出者が出た。最終回に添削指導をして返却した。
第 3 回 10/27	自分にとって大切なことを考える	23 名 79.3%	自分にとって「大切なこと」「好きなこと」を考えさせ、将来の仕事について考えるきっかけを作る。自分とは何かを考える良いきっかけになったようだ。
第 4 回 11/10	自分を表現する	23 名 79.3%	「今の自分」を構成する「ヒストリー」を考えさせつつ、「今の私」を考える。過去から現在を回顧することは新鮮であったようだが、様々な考えが垣間見えた。

第5回 11/17	社会と働く意味について考える	23名 79.3%	自分と「社会」とはどのような関係性であるのかを考えさせつつ、それに関わる「仕事」や「人」について思索させた。
第6回 11/24	学ぶことの意味について考える	27名 93.1%	将来就きたい仕事を考えつつ、今後何をすべきなのかを考えさせた。全員が口頭報告をして締めくくった。

総括

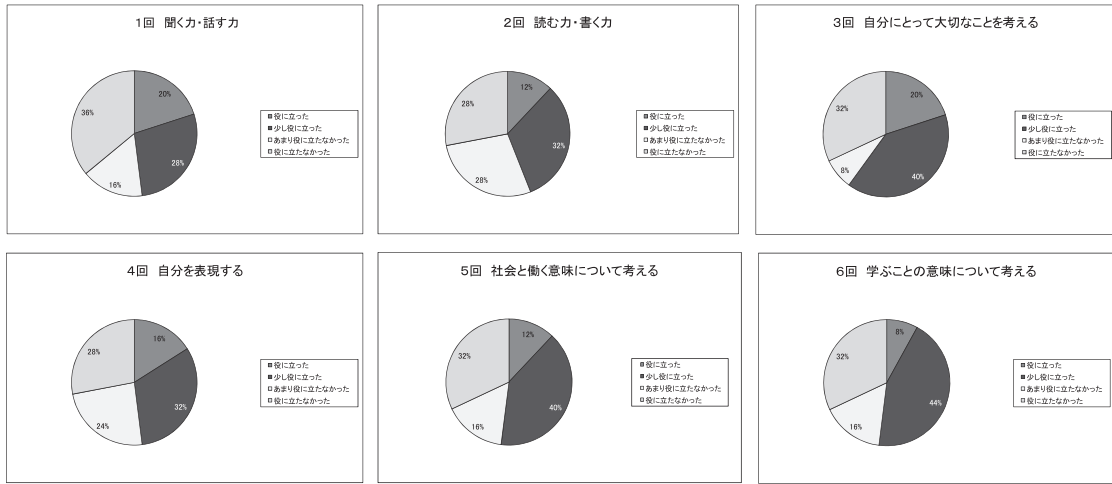
第二回は内容が豊富すぎて時間が足りなくなり、文章作成に時間配分を重点化した。しかしながら、内容的には今後さらに文章作成の指導が必要な水準にある。もちろん、一定のレベルに達しているが、自分を表現することには慣れていない学生が多いようである。また、自分の思考や志向性を表現する方法はまだまだ開拓の余地がありそうである。「自分を表現する」ことこそ、プレキャリアの授業は重要な要素であろうと思われる。

アンケートでは、意外にもおおむね好意的な結果となった。ただし、遅刻が多かったことなどの改善点はある。

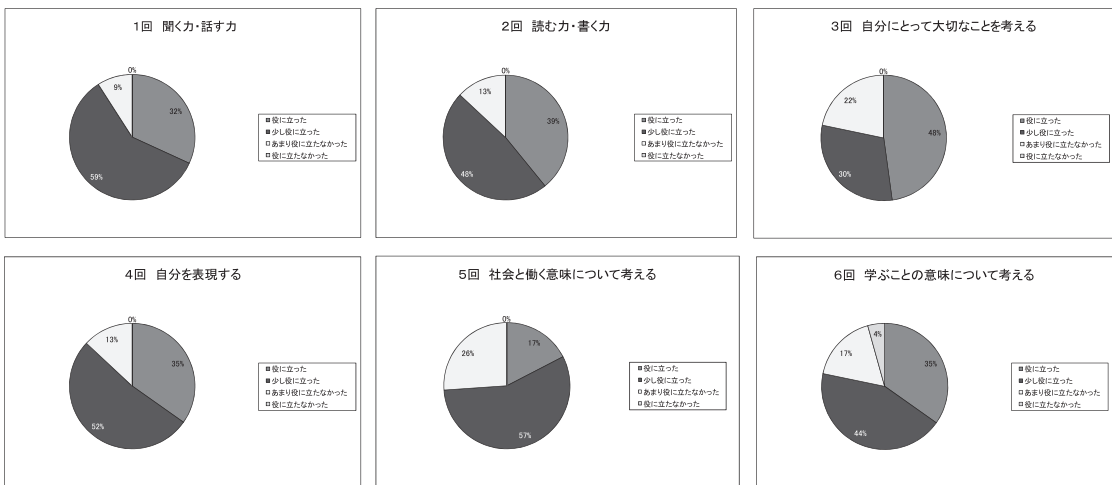
3) 学生による評価

最終回に、昨年同様の学生によるアンケートを実施した。以下がその結果である。

羽矢先生クラス



上原先生クラス



以下、学生による自由記述で書かれた内容を列挙する。

- ・今の自分を見直すきっかけになり、今やりたいこと、これからやることのために、どうすればよいのかが分かった。
- ・楽しかったです。
- ・6回という短い期間だったけど、楽しかった。
- ・もっと人とかわれるようにがんばりたい。
- ・自分のことを見つめ返す良い機会になったと思います。この授業を行なうことで、今の自分が何をすればよいのか見えてくる人もいたと思います。
- ・自分のことを見つめたり将来を考えたりして充実した授業で良いきっかけになったと思います。
- ・この授業を通し、人として大切な何かを学ぶことができました。プレキャリア最高です。
- ・自立と体験の内容と一緒にのりもありましたが、同じ学系の友達と将来について話す機会は少ないので良かったと思います。
- ・個々の授業はあまり役に立ったとは思えないが、全体を通してみれば漠然と何かの役に立ったような気がする。
- ・まだ将来のことは具体的には決められてないと痛感しました。これからしっかり考えていきたいです。
- ・就職を精巧（ママ）するために必要条件として、自分自身を上手く表現できるようになる事、仕事への適応能力を得ることが重要だと思いました。
- ・将来の夢について考えなおせた。
- ・人生を見直すキッカケになりました。
- ・他の人といろいろなことが知れてよかったです。
- ・目標達成のためにやらなければならないことははっきりしているので大学生活で実行して将来につなげたい。このようなことを考えるきっかけになったので良かったと考えている。
- ・他の人の意見を聞くことによって違った考え方を得ることができた。自分の目標を再確認することができた。
- ・自分の好きな事を仕事に出来ればいいけど、できないこともあるのでいろんな仕事に対応できるようにしたいと思った。
- ・SAさんがやさしかった。
- ・SAさんめっちゃいい人でした。
- ・自立体験1に似ていました。
- ・前期でした自立と体験という授業と内容が大して変わらず、友達と話すのが楽しいだけの授業でした。
- ・自立と体験1とほぼ内容まるかぶりですつもらなかった。存在価値を見いだせなかった。
- ・この講義は自分の意見をまとめただけで特に学んだことはないです。
- ・自立と体験1と同じような内容であまり意味がないと思いました。土曜日ということで、みんなのやる気があまりなく、他の事に時間をつかうほうが良いと思った。
- ・うーん…。大事なことなんだけど…。やっぱ土曜日以外がいいな…。
- ・論文を書く時間がもっとほしかった。
- ・班分けをもう少し、きちんとやったほうが良いと思う。
- ・もっとグループ単位での活動を増やしてほしかった。話す人が増えたという点では良い授業でした。
- ・環境基礎ゼミの延長としてこの授業を行なうのではなく、後期の必修授業として独立した授業にして単位を出してほしい。
- ・平日にこの授業をやっても問題なかったのではないかと思った。この授業をやる意味はすごくあったと思う。

#### 4) まとめと課題

学科学系との関係としては、昨年度の学生の声を理解し、早期より、学系代表のご担当の教員と連絡を取りつつ進めてきた。ご担当の学系教員も今年度は、6回の内3回出席され、尚且つ、学生とともにグループ活動に積極的に参加いただいた。それにより、各回の内容・運営、学生の様子についてもご理解いただいたものと思う。学系からの最終的な報告・学生の声が待たれるところである。

明星教育センターとしては、変更した内容については昨年度と同様に事前実施で混乱を避けるよう臨んだ。また、今年度は、学生への関心を喚起する意味でも、初回到6回分のガイドブックを事前配布した。後になり、何を学んだかの振り返りもできる資料として学生の手元に残すようにした。日程も、星友祭をはさみ前後3回ずつの6回で実施した。同じ学生数2クラスを明星教育センター2名の教員で土曜日の2時限目同時実施であった。毎回参加して、学生の様子からは、もう少し、ゆとりのある進め方であっても良いように感じた。学生が、自分で考えて取り組む時間を大事にしてもよかったと思える部分もある。某学生調査で、「論理的に文章を書く力」「人にわかりやすく話す力」が大学教育の成果に関する自己認識では低い数値を示しているが、今回実施している内容はそれに対して有効であると思える。そうした力をつけていく過程では、学生に時間をかけて繰り返し学習する時間を確保していくことが、われわれの今後の課題であろう。我々と学生のキャリアに対する認識とに乖離する部分もある。1年次の後期に行なうこのプレキャリアは、単に就職のためではなく、大学生活及びその後を視野に入れての重要な意味を持つものと考えられる。実施した後の学生アンケートにもあるように、必要性を理解し楽しく授業に取り組んだようではある。しかし、土曜日実施についてと、このプレキャリア独自の単位が出ないことへの疑義が学生にはある。更には、1年前期実施の「自立と体験1」がほぼ完成形にあるので、前期に積極的に取り組んだ学生には、「自立と体験1」とは内容を異にしている、グループワークによる授業手法で同様のイメージでとらえられているようだ。「自立と体験2」を初めとして各学部で独自に所謂キャリア教育が行なわれている。そうした中、今年度より「自立と体験1」から「自立と体験2」「自立と体験3」「自立と体験4」と、系統だててのプランで実施された。この時点で、今までに各学部学科学系で取り組んできているキャリア教育と、大学としてそれぞれの部署との棲み分けと相互の有機的な関連のあるプログラムをどのように実施していくかが課題となる。

2012.12.20